徳川美術館　名品コレクション展示室

令和6年 3月26日(火)～6月9日(日)

展示期間　A:3/26(火)～4/18(木) B:4/19(金)～5/12(日) C:5/14(火)～6/9(日)

凡例：◎は重要文化財、〇は重要美術品を示します。

【第1展示室】

武家のシンボル　－ 武具・刀剣 －

大名はいうまでもなく武士であり、その集団の長であったため、泰平の世の江戸時代にあっても常に軍備を怠ってはならなかった。大名家の武器武具は単なる戦闘実用品ではなく、同時に「武士の心根」を表すように美しく気品に満ちていることが必要だった。中でも刀剣は「武士の魂」といわれる通り、武士の精神の象徴として大切にされ、最も高い格式を持ち、公式の贈答品の筆頭ともされた。大名の甲冑は、一軍の大将の着用品である。武威と気品に満ち、贅を尽くし技術の粋を集めてはた目にも美しく見えるように作られた。

No.	指定	名　　称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
1		黒塗白糸威具足	徳川綱誠(尾張家3代)・義宜(同家16代)着用	江戸	17	
2		梨子地糸巻太刀拵		江戸	18	A
3		梨子地糸巻太刀拵	徳川義宜(尾張家16代)所用	明治	明治3年<1870>	BC
4		紙采配　輪宝蒔絵柄	徳川綱誠(尾張家3代)所用	江戸	17	AB
5		金の丸図軍扇	徳川義宜(尾張家16代)所用	江戸	19	C
6		網代三蓋笠馬標　二枚	徳川義直(尾張家初代)所用	江戸	17	
7		青貝柄槍拵　黒塗鞘付　五本		江戸	18-19	
8		金土俵空穂	朝岡平兵衛重政所用	桃山-江戸	16-17	
追加		弓	朝岡平兵衛重政所用	桃山-江戸	16-17	
9		征矢　三十二本の内	徳川義宜(尾張家16代)所用	江戸	18	
10		大太刀　銘 永則　吹毛影寒天魔膽落別々珊瑚枝々撑著月　大和国添上郡神戸荘柳生伊豫守平利巌所持之	柳生利厳・徳川光友(尾張家2代)所持	室町	14	
11		葵紋蒔絵細太刀拵	徳川治行(尾張家9代宗睦嫡子)所用	江戸	19	AB
12		梨子地葵紋蒔絵毛抜形黄金造太刀拵		江戸	17	C
13		蠟色塗刀拵	貞徳院矩姫(尾張家14代慶勝正室)所用	江戸	19	A
14		蠟色塗脇指拵	貞徳院矩姫(尾張家14代慶勝正室)所用	江戸	19	A
15		蠟色塗刀拵	徳川義宜(尾張家16代)所用	江戸	元治2年<1865>	BC
16		蠟色塗脇指拵	徳川義宜(尾張家16代)所用	江戸	元治元年<1864>	BC
17	◎	太刀　銘 来国俊正和二二(四)年十月廿三日□□歳七十五	徳川家重(9代将軍)・徳川宗勝(尾張家8代)所持	鎌倉	正和4年<1315>	
18	〇	刀　無銘 直次	徳川宗睦(尾張家9代)所持	南北朝	14	
19		小脇指　無銘 相州貞宗	徳川綱條(水戸家3代)・継友(尾張家6代)所持	鎌倉-南北朝	14	
20		短刀　無銘 則重	蜂須賀家政(蓬庵)・徳川家康所持	南北朝	14	
21		本阿弥光常折紙　元禄三年午七月三日(№19 小脇指　無銘 相州貞宗 附属)		江戸	元禄3年<1690>	
22		御腰物元帳　第一巻　仁ノ部御大切御道具ノ部		江戸	19	
23		蓬菖蒲図三所物　銘 程乗(後藤家9代)作 光美(同家15代)(花押)		江戸	17	
24		土筆図二所物　無銘 程乗(後藤家9代)		江戸	17	
25		海松に潮汲桶図目貫　無銘 宗乗(後藤家2代)		室町	15-16	
26		桜紋図鐔　銘 延乗(後藤家13代)作 光美(同家15代)(花押)		江戸	19	
27		杜若冠図透鉄鐔　銘 武州住正恒		江戸	17-18	

【第1展示室の見どころ　－具足飾り－】

大名の甲冑は、一軍を指揮する大将の威厳を示す着用品である。武家の長としての威厳と品格に満ち、贅を尽くし技術の粋を集めて、はた目にも美しく見えるように作られた。展示室入口正面の展示ケースは、名古屋城二之丸御殿の御夜居之間で毎年正月十一日に行われた「具足始め」の飾り付けに基づいて展示している。「具足始め」とは甲冑を飾り、その年の武運を祈願する尾張徳川家の年中行事である。甲冑の向かって右手に掲げられている「馬標」は、陣中や戦場において大将の居所を示すしるしであった。また、甲冑の後ろに掲げられた葵紋付きの大きな旗は「馬標」と同じ役目があり、「纏」と呼ばれている。